北海道新聞
7 国際 16版 2010年（平成22年）5月29日（土曜日）

パレスチナ人権センター ラジ・スラーニ代表に聞く

長引く封鎖 死にゆくガザ

人や物、自由な移動ぜひ

2008年12月末から09年1月にかけてイスラエル軍が行った大規模攻撃で甚大な被害を受けたパレスチナ自治区ガザの非政府組織（NGO）「パレスチナ人権センター」のラジ・スラーニ代表(56)が来日し、東京や大阪の講演などでガザの惨状を訴えている。人口約150万人が暮らすガザの現状を聞いた。

（編集委員　平田博治）

イスラエルによるガザ封鎖の解除を強く訴えるスラーニ氏

＜略歴＞ガザ出身。弁護士として長くパレスチナ人の人権擁護活動を続け、イスラエルに数度にわたり逮捕され、拷問を受ける。95年、パレスチナ人権センターを設立し、イスラエルによる被害などを詳細に記録、世界に向けて発信している。非政府組織（NGO）「ヒューマンライツ・ナウ」（東京）の招きで来日した。

――ガザ攻撃から1年半近く経過しました。状況は。

「今も封鎖が続き、人や物の移動が制限されています。国際社会は食料や薬品を配給していますが、失業率は6割に達し、9割の人たちが貧困ライン以下での生活を余儀なくされています。殺された約1400人のうち87%は民間人。数千の家屋をはじめ、病院も学校も工場も破壊されました。状況は何も良くなっていない。人びとは孤立し放置されていると思っています。ガザは死につつあるのです」

――ガザ再建のために何が必要ですか。

「セメント1袋さえ、ガザに入ってこない。国際社会は47億ドルの支援を約束したが、（イスラエルの妨害で）入ってきていない。われわれが求めているのは、人や物の自由な移動です。私たちは、この犯罪的な封鎖を解除し、人びとを自由にしたい」

――イスラエルとパレスチナの間接和平交渉が始まりました。和平は可能でしょうか。

「パレスチナ人の要求は単純明快です。ガザ、ヨルダン川西岸、東エルサレムを領土とする国家をつくること。しかし、西岸ではユダヤ人入植地が日々拡大し、（イスラエルが建設している）分離壁はあと数カ月で完成します。これはアパルトヘイト（人種隔離）政策です。東エルサレムでは（パレスチナ人を追い出し）、ユダヤ人化が進んでいる。問題はわれわれにあるのではなく、イスラエルの決断にかかっています」